

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月1日

いつも喜んでいなさい。…どんなことにも感謝しなさい。—1テサロニケ5:16

どうしたらこれができるのでしょうか？ 困難の中でどうして感謝ができるのでしょうか？ その喜びはどこから来るのでしょうか？ 私たちはそれを作り出すことができません。私たちはそれを得ることがなければ、それを味わうことができないのです！ しかしパウロはココで秘訣を与えています。私たちは主にあって喜ぶのです。私たちは主の喜びによって歩み、たとえ私たちが失望する状況においても、私たちは“霊において喜ぶ”ことができます。しかも勝利の言葉を口にしましょう！「父よ、…それは御心にかなうことでした」(ルカ 10:21)と。主の喜びはあなたのものです。困難な問題をはるかに超えるその喜びによって歩むことを学びなさい。打ち倒されそうな時には、上を見上げ、自分にたずねてみなさい、主は今日は喜びを失われたのだろうか？と。もし主が喜びを失われたのなら、あなたもそのことで満足するべきなのです！それはあなたの喜びの問題ではなく、主の喜びの問題です。主の喜びはあなたの力です。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月2日

どうかわたしを祝福して、・・・御手がわたしと共にあって災いからわたしを守り、苦しみを遠ざけてくださいー1歴代誌4:10

祝福された生活は正常なクリスチャンの生活そのものです。そのただひとつの関心事はその祝福の流れを妨げないことです。もしそれが妨げられるのであれば、原因があるのであって、その理由を外の事柄に探すべきではありません。ある時、私はあるクリスチャンの働き人が他の人と張り合っているのを見ました。彼は自分が正しいと言い張っているのを聞きました。確かに彼の言葉と行いには何も問題がなかったのです。しかし私は思いました: 兄弟よ、あなたは完全に正しいかも知れません。が、私たちの正しさが主の祝福を欠いているとしたら、それが何の益になるでしょう?

神の働きにおいては、神の祝福が欠如していたらすべては無意味となります。私たちが神のいさおしを知ることに関心を置くのであれば、私たちが語る言葉にも、また私たちの生き方にも限界があることを知るでしょう。なぜなら正しさは私たちの目的ではないからです。私たちの行動の判断は、正しいか間違っているかではありません。それは常にその行為に神聖なる祝福が伴うかどうかによるのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月3日

エサウはヤコブの兄ではないかと／主は言われる。しかし、わたしはヤコブを愛した
-マラキ1:2

神は確かに「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」(ローマ9:13)と言われ、ご自身が愛した者を祝福されるのです。これはまったく峻厳なる事実です。ダビデは失敗し、アブラハムも過ちを犯し、ヤコブは狡猾でありましたが、それでもなお彼らの上に神の祝福があったのです。今日、多分あなたはヤコブよりはもっと善良な者かも知れませんが、神の神聖なる顧みがなかったら、あなたの居場所もありません。神の祝福によって高いものを望むことを学びましょう。また神の祝福がなくなつたと感じさせるような疑い引き起こす事態を拒否しましょう。多分あなたは自分よりも賜物がない兄弟を軽く見る傾向があるかもしれせん。しかし神は彼を祝福しているのです！またあなたをもです！あなた自身で何度も何度も正しい事をなすかも知れませんが、そこに神の祝福が欠如することがあります。あなたは神に対してあなたは間違っていますと言うかも知れせん。神の選択と対立することを避けなさい。他人の召しを羨むことは自分自身の召しを損なうことになるでしょう。私たちが実を結ぶのは一重に神の祝福によるのであり、私たちの語り、態度、意見などがそれを妨げる事があり得るのです。ただ神が私たちを取り扱う方法に信頼し、神の祝福がなければ、私たちは生きることができないことを知らましよう！

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月4日

また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。—1コリント1:28

十字架は宇宙における最も偉大なる平等主義者です。それは私たちすべてをゼロ地点へもたらします。そして全人類に対して新しい開始を提供します。より早く成長するクリスチャンと、成長の遅いクリスチャンの最も大きな違いは、前者は真実でありまた忠実であり、かつ生まれつきのもを一切所有しようとしなないことによります。私たちには、神が私たちを用いられるために、あまりに強すぎる部分とでしゃばる部分があり過ぎるのです。神は無力な者や卑しい者を選ばれましたが、神はさらに進まれます。使徒パウロは人間の目においてはあまりにも弱くされまた卑しめられたために、神が用いられるために選ばれたとは言え、物事をどうしてよいのかまったく分からない状況に置かれているようでした。そこで彼はこの節をまとめ上げるために、「無に等しい者たちを」とあえて書いたのです。

あなたはそのようなカテゴリーの中に入りますか？ そうであっても失望しないで下さい。あなたは他の人々と比べて遅れを取っているどころか、実際は彼らよりも優勢なのです。なぜならあなたがゼロ地点に来ているからであって、神のスタート地点にもう到達しているからです！ 神を単純に信じなさい、そして従いなさい。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月5日

アブラハムが神に祈ると、神はアビメレクとその妻、および侍女たちをいやされたので、再び子供を産むことができるようになった。-創世記20:17

これこそがこの神の人の霊的生活の最も直接的な証拠でした。すなわち彼は、自分の妻のための祈りに対する答えを得ていないにもかかわらず、他者のために、子供が生まれるように祈ることができたのです。

アブラハムが妻のサラを妹であると、半分真実、半分偽りであること語ったことを理解することは困難です。彼はその事件の前に、非常に深い神との交わりを得ていたのですから、なおさらです。しかし今回の彼は、彼らの間で交わされた約束がメソポタミヤにまで遡ることを明らかにしました。ある種の隠された不信仰と恐れがこの数年間持続しており、今やそれが白日の下に曝される時がようやく訪れたのです。旅を開始して以来、彼は常にサラが自分から離れてしまう事を恐れていたのです。しかし本当はこの時に至るまで、神がそのようなことが起こらないように全責任を負って下さっていることを知るべきだったのです。

そしてついに、ここゼラにおいて、隠されていた恐れが白日の下に曝され、ほふられ、アブラハムは他の人のために祈ることができたのです。彼はサラのために祈りませんでした。今や彼はその必要がなかったのです。そしてその直後にイサクが誕生しました。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月6日

イエスが「わたしである」と言われたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。—ヨハネ 18:6

カルバリの前の晩、すべての事柄が悪い方向へと向かうようでした。裏切りと拒絶の空気が満ちており、人々は隠れ、また逃げるために裸で走り出したのです。しかしご自分を捕縛するために来た人々に向かって、イエスは平安と静けさの中で言われました、「わたしである」と。神経質になっていたのは彼らの方であり、後ずさりして倒れ込んだのです。この内なる静けさこそがイエスの周囲に漂った徳性でした。イエスは嵐の最中でも眠ることができました。イエスは騒がしい性急な群衆の中にあっても、信仰によるタッチを認めることができました。そして、誰が触れたのか、と尋ねました。「わたしの平安」とイエスは言われます。

イエスは続けます、この平安を「わたしはあなたがたに残す」と。主はそれを取り去られません、なぜなら主ご自身がおられるからです。そこで古(いにしえ)の殉教者たちもその平安を証したのです。彼らは松明として火を着けられ、焼かれました。しかし彼らは誰もが否定し得ない静かな威厳を醸していたのです。そうです、この世にあっては私たちは困難があります。しかし私たちは主の平安を持っているのです。そしてそれは使徒パウロが確証しているように、私たちのあらゆる理解力を超える平安なのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月7日

わたしは、平安をあなたがたに残し、わたしの平安を与える。—ヨハネ14:27

それは単なる平安ではありません。「わたしの平安」です。神が私たちに下さる平安は単なる平安ではなく、「神の平安」です。それは何ものにも妨げられることのない、私たちの心を人知を超えた平安に保つのです(ピリピ4:7)。私たちは物事がうまくいかなくなると心を騒がせます。しかし私たちはそうではない何かを理解すべきです。神はこの世をご自身のご計画のためのアリーナとして選ばれ、ご自身が何かをなさるためにその中心におられるのです。神は確固としたご計画をもたれ、サタンがそれに介入し、妨害を試みますが、それにかかわらず(私たちはまだごく僅かしか知り得ていないのですが)、神は深いところでの妨げられることのない平安を維持されるのです。もし必要があるのでしたら、神はさらなる千年間を待つことを厭うことはありません。神が私たちに下さったのはこのような平安です。

パウロは、神の平安を私たちの心の要害とすべきであるべきだと言っています。それは何を意味するのでしょうか？敵は私たちに接近するためにまず要害に攻撃するのです。要害が破られる時、私たちの心が傷を受けます。そこで私たちはまず神と同様に平安を維持する必要があります。なぜなら、神の平安こそが、それは神を保つ平安ですが、私たちを守るのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月8日

けれども、キリストは、既に実現している恵みの大祭司としておいでになったのですから、…御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです。—ヘブル 9:11-12

もし私がキリストの血の価値を評価するのでしたら、まず神がそれをどう評価されるかを受け入れなければなりません。なぜなら血は第一義的には私のためのもではなく、神のためのもだからです。このことを贖いの日の記録ほどに明確に証しするものは他にありません。レビ記16章においてはその日において罪のための捧げ物から血が取られ、それが至聖所に持ち込まれるのを見ますが、そこで主の前に七度血がふりかけられます。この捧げ物はもちろん、幕屋の中で、衆目の監視の下で行われる公開のものです。しかし至聖所そのものの中へは大祭司以外誰も入ることができません。彼はただ一人で神の前にその贖いの血を注ぎ、その効果に与る人々の目からは隠されているのです。私たちはこのことを明確に見る必要があります。キリストの尊い血潮は、第一に神のためのものであって、人のためのもではありません。聖にして義なる神はそれを受け入れ、神ご自身が満足されたことを宣言され、そのことを私たちが正しく評価するときに、私たちはその効力に与ることができるのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月9日

恵と真理はイエス・キリストから来る。—ヨハネ 1:17

この節は続くヨハネ福音書の内容にとって鍵となるものです。この節からあなた自身も二重の強調点を見出す事ができるでしょう-ひとつは真理についての、もうひとつは恵についてです。真理は常に私たちに何かを要求しますが、恵は常にそれを満たすために存在します。8章に記録された姦淫の現場を捕らえられた女の事件からは真理が輝き出しています。主は女に対して、「いいんだよ、あなたは罪を犯していない」とは言われませんでした。主はまたユダヤ人に対して、女の犯したことが重大な事ではないかのようにも言われませんでした。またその事に深い関心を抱いていないかのようにも言われませんでした。そうではなく、主の言葉は、「あなたがたのうちで罪のない者が、まずこの女に石を投げなさい」でした。真理がそこにありました。女は確かに罪を犯したのです。そして律法によれば、女は石打ちにされるべきなのです。しかしまたそこには恵がありました。人々が皆去った後、イエスは女を振り向いて、「わたしもあなたを罪に定めない」と言われました。ヨハネ福音書を通して、すべての真理がつねに恵によって満たされていることを見出す事ができるでしょう。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月10日

アブラムが九十九歳になったとき、主はアブラムに現れて言われた『わたしは全能の神である。あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい。-創世記17:1

神はこの事を強かった頃のアブラム、つまりイシュマエルを誕生させる事ができた頃の彼に語ったのではありません。神はご自身の僕が、仮に彼がそれを望んだとしても、もはや同じ事ができないほどに、完全に無力になるまで待たれたのです。その時、かつその時のみに、神は彼に現れて、ご自身が全能の神であることを新たに啓示されたのです。

アブラムが自分の行為を悔い改めたことの証拠はありませんでした。むしろイシュマエルは彼にとってもっと大切な存在となっていたようにも見えます。彼は自分の過ちを理解しなかったのでしょうか？彼は神を追い求めなかったのでしょうか？本当に彼がそれらをしていなかったとしたら、人間的な視点からは、彼にはもはや希望はなかったと言えるでしょう。しかし、希望は彼が神を求めたことにあるのではなく、神が彼を求めたことにあるのです。そして確かに神はそうされたのです！神は依然としてご自身の僕の上に働きかけておられました。神は彼を放置されなかったのです。「わたしが全能であることを学べ、そしてその知識の中を歩め」と神は言われました。なぜなら「全き」とは、なによりも、「弱さの中で全うされよ」と言う意味であり、それは全能の神がすべてをなされることに他ならないからです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月11日

玉座に座っておられる方と小羊とに、賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように-黙示録5:13

創造者ではなく、被造物を礼拝することは、私たちの中に深く根付いている傾向です。このヨハネ自身ですら、引き上げられる必要があったのです。黙示録の書の中で取り扱われているすべての葛藤の論点は、まさにこの点に帰着されます。すべての天における戦い、すべての地における艱難は、みな神の賛美を盗み取ろうとするサタンが目論見に起因するのです。しかしこの戴冠の日に関する黙示録5章では、天におけるもの、地におけるもの、地下におけるもの、そして海におけるもの、それらすべてがみなキリストを究極の高き存在として崇めるのです。この章はピリピ2章と照合しつつ閉じられます。すなわち、「こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べ」るのです。十字架での死はこの結末へと達します。尊いのは今ほふられたと見える小羊ただおひとりなのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月12日

わたしの子ら、わたしの手の業について、わたしに命ずるのか。—イザヤ45:11

今、この時間の中では、神はご自由ではありません。神はご自身の子供たちを将棋板のコマのように動かすことはできません。神はご自身を彼らの自由意志の中に制限しておられるのです。神はあえてこうされているのであり、それは究極的に何をご自身へともたらずかをご存知だからです。永遠の過去においては神には制限がありませんでした。そこには第二の意志はなかったのです。そしてまた永遠の未来においても神には制限がありません。それは愛の意志が勝利され、人間の自由意志は神の意志とひとつとされるからです。これこそが神の栄光です。

しかし、現在、この時間の中では、神はご自身を制限されます。今日、ただ自由意志をもった人間が神の意志と調和される時にのみ、神はご自身の目的を成就されるのです。自由意志とは私が神に従うかどうか、それを自分で選択できることです。それは神が莫大なエネルギーを持った機関車を私たちに委ね、それを線路の上を走らせよと言われるようなものです。力はそこにあります。目的地も定められています。しかし機関車は線路をコントロールすることはできません。機関車を制限しそれを導くのは線路の方なのです。「何でも願うものを求めよ。それは与えられるであろう」。私たちの責任は何と重大なことでしょうか！

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月13日

何であれ、あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。－マタイ18:18

「何であれ」:これは尊い言葉です。ここでは天は地によって計られています。なぜなら天には私たちが地上で求めること以上の力があり、また私たちが地上で求める以上に、天では解いたり、つないだりすることが成就されているからです。では、なぜ私たちは罪からの解放を求めるのでしょうか？なぜ私たちは神に対してこの力の付与を願い求めるのでしょうか？「私にあって、あなたの御旨がなりますように」と祈ることは疑いなく素晴らしい開始です。しかし私たちはさらに進んで、「地において、あなたの御旨がなりますように」と祈る必要があるのです。今日、神の子供たちはあまりにも小さなことに囚われています。そこで彼らの祈りは天の力が解かれることを求めるだけなのです。自分自身のための祈りや、自分の当面の関心事のための祈りは、御国のための祈りへと導かれる必要があります。このことにおいて、教会は天の噴出口となり、天の力を解き放つチャンネルとなり、そして神の目的が成就するための媒体となるのです。天にはきわめて多くの事柄が蓄積されたままです。なぜなら神はそれを地上へ放出するための噴出口を得ていないからであり、そのことを教会が依然として祈っていないからです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月14日

この人はわたしに良いことをしてくれたのだ。－マタイ126:10

主が戻られて、私たちが主と顔と顔を合わせてまみえるとき、私たちは自分の大切に
するすべての宝を主の御足の元に置くことを信じます。しかし今日はどうでしょうー私た
ちは同じ事を今日なしているでしょうか？

マリアがナルドの香油の壺を割ってイエスの頭に香油を注いだ日から数日後、イエス
の体に香油を塗るために、朝早く訪れた女性が数名いました。彼らはそれができたで
しょうか？彼らはその週の最初の日にその目的を達成することができたでしょうか？いい
え。主はそこにおられなかったのです！主の体に香油を塗ることができた魂はたった一
つでしたーそれは主にその数日前に油を注いだマリアだけでした。他の者たちはすで
に遅かったのです。なぜなら主は復活されたからです。そこできわめて重要な質問はこ
れです:今日、私は主のために何をなすのでしょうか？

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月15日

わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。－1ペテロ1:3

この奨励はペテロとパウロの書簡において現れ、その自然さから分かるこれらの人物の真の霊性のある面を証しています。これによって私たちはその人物を知ることができるのです。そして神はこのような人間性の要素が現れることを許されます。なぜなら、それは単に私たちの語ることでなく、私たちの本質が問われる問題だからです。

御言葉を宣べ伝える事は私たちの特権ですが、単なる私自身の言葉では神の託宣とはなり得ません。神の言葉を自分自身の個人的な経験とすることなくしては、私たちは真に神の言葉を語り出すことはできないのです。多くの人々は良い説教をすることはできるでしょうが、私たちが何気なく語る言葉には、自分が何者であるかを証明し、あるいはそのすべてを明らかにしてしまう力があるのです。「心にあるものを口が語る」とあるとおりです。謙遜か傲慢か、十字架の取り扱いを経ているか依然として傷もなく砕かれていないか。真理が語り出される必要があります。神は演技を望まれません。私たちの霊は私たちの言葉において現れるのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月16日

主の契約の箱を担いだ祭司たちがヨルダン川の真ん中の干上がった川床に立ち止まっているうちに、全イスラエルは干上がった川床を渡り、民はすべてヨルダン川を渡り終わった。－ヨシュア3:17

私たちすべての神の子たちは、皆、その嗣業へと入り込むことを信じる必要があります。それが神の目的であり、必ず成し遂げられることなのです。そしてその目的を理解するための手段として、必要に応じて死の中に喜んで入り込み、すべての者が安全に渡り終えるまでそこに敢然と立ち止まる人々を、神は必要とされるのです。この祭司たちがそのようになった事のゆえに、すなわち死の危険にさらされつつ契約の箱をそこに担いだまま留まったことのゆえに、すべての民は干上がった川床を渡りヨルダン川を超えたのでした。唯一つの魂さえも取り残されませんでした！もちろん約束の地への道を開いたのは、彼らではなく、神の契約の箱がなしたことです。決してその事を忘れてはなりません。しかし同時に次のことを覚えてください：契約の箱をそこに運び、そこで保ったのは彼らでした。主と共に死の真っ只中に立ち止まった彼らの信仰の行為によって、他の人々がいのちの豊かさの中へと進み行く事ができたのです。私たちはそのことの備えができているでしょうか？

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月17日

わたしたちとあなたがたとをキリストに固く結び付け、わたしたちに油を注いでくださったのは、神です。－2コリント1:21

主なる神ご自身が私たちがキリストのうちに置いてくださいました。したがって私たちの運命はキリストの運命と結び付けられています。中国の村でメッセージする時に、私たちはとても単純な例を用います。ある時私は小さな本を取り出しました。そして紙切れをその中に入れました。「さあ、よく見ていてください。この紙切れを本の中に入れましたが、紙切れこれ自身の本質を持っています。この本とはまったく異なるものです。これを本にはさみ入れたときには、他の用途は何もなくなります。今、私はこの本にあることをします。これを上海に郵送します。私は紙切れを郵送したのではありません。しかし紙切れは本の間に入っています。ではこの紙切れはどこに行くのでしょうか？本は上海に行きますが、紙切れはここに残るのでしょうか？違います、本が贈られる所に、紙切れも送られるのです。もし川に落とされるならば、紙切れも落ちます。私がそれをすぐさま拾い上げれば、紙切れも拾われるのです。本が経る運命はすべてその間の紙切れもまた経るのです。それは本の中に置かれているからです。キリストの内にあるとは、まことに同様の事です。キリストが経られたすべてと私たちがまったく同一視されてしまうことです。キリストは十字架につけられました。ならば、どうして私たちは神にそれを求める必要があります？ありません！救い主の運命はすでに私のものとされているからです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月18日

わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、御子をわたしに示してーガラテヤ1:15-16

私はたとえそれが可能であったとしても、変貌の山においてすらも、十二弟子たちと私の立場を交換しようとは思いません。彼らと共におられたキリストは時間と空間に制限された存在でした。彼がガリラヤにおられる時は、エルサレムにはおられません。エルサレムにおられるならば、ガリラヤを探すことは無意味でした。しかし今日キリストは時間と空間に制限されていません。なぜなら彼は永遠のいのちの力の中に生きておられ、御父はそのキリストを私の心のうちに啓示されることをよしとされたのです。当時、キリストは、時々、弟子たちと共におられました。しかし今日常に私たちと共におられます。彼らは肉に従って、キリストを知り、キリストを見、キリストのきわめて近くに生きたのでした。「しかし今やキリストをそのように知ることはすまい」今、私はキリストを真理の中で知っています。なぜなら神ご自身が私をしてキリストを知るように願われたからです。そのために神はキリストを知る知識にあって、私に対して知恵と啓示の霊を賜ったのではないのでしょうか？

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月19日

しかし、父親は僕たちに言った『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。—ルカ15:22

神はきわめて豊かな方であるゆえに、神の第一の喜びは与えることです。神の蔵はあまりにもぎっしりと詰っているために、私たちがその蔵の富を受けるのを拒否することは神にとっては悲しみとなります。放蕩息子が帰ってきたとき、父は彼を叱責することもなく、また浪費した資産について問い質すこともしませんでした。父は息子が帰ってきたことをただ喜び、さらにご自分の富を息子に与えることができる機会を喜んだのでした。息子に対して良い服を着せ、指輪をはめ、履物を備え、食事をもてなすことは、父にとっての喜びだったのです。それに対して兄が父の資産をそのように享受し損なったことは、父の悲しみでした。私たちが神のために何かを用意しようと務めることは神の心を悲しませるのです。神はあまりにも豊かな方なのです。私たちが神をして、与え、与え、与えせしめるほどに、神は喜ばれるのです。神は永遠の備えの主であること、また永遠の行為者であることを願われます。私たちがただ神のそのような豊かさと偉大さを知ることができますように！

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月20日

ヘブロンはケナズ人エフネの子カレブの嗣業の土地となって、今日に至っている。
彼がイスラエルの神、主に従いとおしたからである。—ヨシュア14:14

「私たちは必ず勝利する」とは主に確信を置く男と女の宣言ですが、それは制限がありません。彼は神の約束は真実であると信じています。また神が神の民と共におられ、敵に対する勝利は確実なものである信じています。あなたはこれを信じるでしょうか？多くの人は信じるでしょう。しかしその信仰は不安定なのです。彼らは賛美の歌を歌うでしょう。またそのことばは正しいかも知れません。しかしそのトーンにはどこかためらいがあるのです。カレブにあってはそうではありませんでした。彼は正しい歌を確信をもって、正しいトーンで歌いました。彼らの果敢な、躍動するトーンを聞いてください：

「私たちは上って行って、それを得よう；私たちは確かに勝利するのだ」

彼は自分の神に関するすべてにおいて何らの疑いも持ちませんでした。しかしまた最初の節にも注意をしてください：「ただちにのぼって行こう！」真の信仰は躊躇いがありません。神がご自身のことばに対して真実である事を認めた者は、神のみ旨を単に行うことばかりではなく、それをただちに行うことによって、それを宣言するのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月21日

わたしたちは、律法が靈的なものであると知っています。しかし、わたしは肉の人であり、罪に売り渡されています。－ローマ7:14

もしあなたが不器用な僕を持っていても、彼が黙って座って何もしなければその不器用さは現れません。彼が一日中何もしなければ、あなたにとって何の益にもならないことは事実ですが、しかもあなたに対して何のダメージも与えることもありません。しかしあなたが彼に対して「今一緒に来なさい、時間を無駄にするのでない。ささっと立ち上がって何かをせよ！」と言ったとしたら、たちまち問題が生じ出すことでしょう。イスを蹴散らかし、先にあるフットスツールにつまづき、手を出すなり高価な皿を落として割ってしまうことでしょう。あなたが彼に何も求めなければ彼の不器用さは現れませんが、彼に命じた途端に彼の無骨さが現れてしまうのです。私たちはみな求められることは正しかったのですが、私たち自身に問題があったのです！私たちは生まれつきの罪人だからです。問題はもし律法がなかったら、私たちはそのことに気がつかなかったでしょう。神が私たちに何も求めなければ、私たちは何も問題がないかのようにでしょう。しかし神があることを求められるやいなや、それは私たちの罪深さを明らかにする機会となることでしょう。なぜなら、「律法によって罪ははなはだ悪性のものとなった」からです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月22日

わたしは、わたしたちの主イエス・キリストによって神に感謝します—ローマ7:25

「私は何とみじめな者だろう。誰がこの私を救い出して下さるのだろう！」と、パウロは絶望の叫びを上げました。ところが瞬く間に彼は賛美の叫びへと変わるのです。

救われた人の最初のことばは最も尊いものです：「神に感謝します」。もしある人があなたに一杯の水をくれたとしたら、他の人ではなく、まさにその人に対して感謝することでしょう。どうしてパウロは「神に感謝する」と言ったのでしょうか？それは神がすべてをなしてくださったからです。もしパウロがしたことだったとしたら、彼は言ったことでしょう、「私はパウロに感謝する」と。しかし彼は自分が「みじめな者」と分かっていました。そして神だけが自分の必要を満たしてくださることを知っていました。だから彼は神に感謝したのです。神はすべてをなさることを願われます。なぜなら神はすべての栄光を得られるべき方だからです。神は十字架で私たちの救いのためのすべてをなさり、また私たちの解放のためのすべてをなして下さるのです。どちらにあっても神が行われるのです。「あなたがたのうちで働かれるのは神である・・・」。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月23日

その日ダビデは主を恐れて言った。「主の箱を、私のところにお迎えすることはできない。」—2サムエル6:9

多分私たちはこのウザの悲劇的な死の物語によって困惑させられるかも知れません。ダビデは「御名によって呼ばれる」神の契約の箱を運ぶ荷車の正しい取り扱い方を知らずに罪を犯しました。とても安全な方法であるに見えるかも知れませんが、それは人間の思考であって、それがいかに素晴らしくとも人間の不十分さを暴露するのです。牛が躓きました。契約の箱が揺れました。ウザはそれを支えようと手で支えたのです。彼はあくまでも善意で行ったのであり、神の栄光のためになしたのです。しかし彼は直ちに死にました。ダビデが困惑するのは当然のことです。

契約の箱はイスラエルを守りました。イスラエルが契約の箱を守ったではありません。森林警備員が虎を守る事を聞いたことがありますか?違います。神はご自分のことはご自身でなさることができます。神ご自身がなさることを人がしてしまうのです。神が語ることを待ち望む時に、私たちが語ってしまうのです。神が備えてくださる時を待つべきなのに私たちが用意してしまうのです。「どうして私が語ってはならないのですか?私がしたいのです」と私たちは抵抗します。これが私たちの務めの問題です。私たちはそこから逃れることができないかのようにです。しかし神を賛美します。私たちが罪を告白するならば、神は真実で正しい方ですから、私たちは赦していただけるのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月24日

しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。—ヨハネ16:13

一つ確かな事があります。それは信仰の前に啓示が先立つ事です。見ることと信じることはクリスチャン生活を支配する二つの原則です。私たちが神がキリストにあって成就された事を見るとき、私たちは直ちに信仰によって「主よ、感謝します！」と言う叫びを上げることでしょう。啓示はつねに聖霊の働きです。聖霊は私たちと共におられ、御言葉を開き、あらゆる真理の中へと導いて下さいます。その方に頼りなさい、なぜならそのためにこそ聖霊がここにおられるのです。もしも理解力や信仰の欠如を覚えるならば、それらの困難さを直接に主に持っていくのです。「主よ、私の目を開いてください。このことを私に明確にして下さい。私の不信仰を助けてください！」と申し上げましょう。主はそのような祈りを決して無視されたままにはされません。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月25日

ペトロの声だと分かれると、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。人々は、「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。—使徒12:14-15

多くの人々が私の元に来て、主に信頼することを追及する際にあつてすら、自分のいだけ不安や恐れを訴えました。彼らは自分の訴えを述べ、神の約束を確認するのですが、それでもなお、絶えず招かれざる疑惑が頭をもたげるのでした。私はペテロが牢獄から戻り、教会が祈りのために集まっている場所の扉を叩くと、信者たちは「ペテロの天使だ」と言う場面を思い巡らせるのが好きです。

今日、マリアの家に集まっていた人々よりも偉大な信仰を持っていると宣言する人々がおります。彼らは神が天使をつかわし、牢獄のすべての扉を御使いの前で開いて下さると確信しているのです。そこで風が吹くと、「あ、ペテロがノックしている!」と言うでしょう。雨が降っても、ふたたび「ペテロがノックしている!」と。しかしこれらの人々はあまりにも浅薄にして、軽薄です。彼らの信仰は必ずしも真の信仰ではありません。神からの真の信仰を働かせている、真に明け渡したクリスチャンですらも、もしかすると自分の信仰は間違っているのかも知れないと言う、人生の曲がり角に潜んでいる疑問を抱くことがどんなことであるかを知っているのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月26日

神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。—エペソ1:22

天にいますキリストを、そこに到達すべき理想として仰ぎ見ることをしないように。キリストをあなたに対する神のギフトとして見るのです。あなたはこの世の事柄を自分を落ち込ませるものと感じるかも知れませんが、それらのものはキリストを天から引き下ろすことができないのと同様に、あなたをも引き下ろすことはないのです。あなたはキリストにあって天の安全なところにいるのです。このことを疑いますか？あなたの机の上に何本かの黄色の花があるとしましょう。私とその部屋に入らずに、「黄色の花があそこやここにあるはずだ」と繰り返すことにより、それらの花が存在するようになるわけではありません！そうではなく、すでに花がそこにあるのです。私はただ目を開いて、そのことを見ればよいのです！

私たちの信仰は信条を繰り返すことではありません。それは神がキリストにあって成就してくださった永遠の事実に基づくのです。私たちがこれらの事実の上に信仰を置こうとするならば、聖霊が臨在され、それが真理である事を明らかにして下さるでしょう。私たちはキリストにある者として自分を見るのです。すると私たちは落ち込むことはなく、むしろキリストの力によって支えられるのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月27日

主を仰ぎ見る人は光と輝き、辱めに顔を伏せることはない。—詩篇34:5

私たちは、自分自身の主観的靈的経験を思い煩い、自分自身に注意が向いてしまうことから守られる必要があります。このことを電気の明かりを例として説明しましょう。あなたがある部屋にいて、そこがどんどん暗くなったとします。本を読むために電気を点けることでしょうか。あなたの脇のテーブルに読書灯があります。あなたはどうしますか？光がつくかどうか、それを意識的に見つめますか？布を取ってその電球を拭きますか？違いますね、ただ立ち上がって、部屋を横切り、スイッチのある壁まで来てそれを入れて、電気を流すだけです。電気の源に注意を払うのであり、後は必要な行動を取りさえすれば、光は点灯するのです。つねに神がキリストにあって成就されたことに留まりなさい。そして主があなたの中で何をなしてくださるか、ただそのことに注意を置きましょう。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月28日

主にあっていつも喜んでいなさい。繰り返しますが、喜んでいなさい。—ピリピ4:4

迫害によって、パウロとバルナバはピシディアのアンテオケにおいて、弟子たちの一団から離れ、さらに先に進む事を余儀なくされました(使徒13:50ff)。まだ生まれたばかりの教会から彼らが離れ去ることはどのような影響をもたらしたのでしょうか？そこにいたのは新しい信徒たち、キリストにある幼子だけでした。彼らは使徒たちに、今しばらくとどまり、自分たちの霊的必要を顧みてくれるように求めたのでしょうか？「もしあなたがたが私たちから離れるならば、私たちは牧者のない羊となるでしょう。少なくともどちらかが残って私たちを顧みてください！迫害はきわめて厳しく、あなたがたの助けがなくてはそれを乗り越える事はできません」。彼らはこのように懇願したのでしょうか？違います。そうではなく、聖句は次の素晴らしい記録を残しています！「すると弟子たちは喜びと聖霊とに満たされていた」！パウロとバルナバが離れた時、彼らには何らの嘆きもなかったのです。むしろ大いなる喜びが満ちたのです。なぜなら使徒たちが離れることは他の多くの人々が福音を聞く機会となるからです。さらにそれにとどまりません。彼らは自ら立って、聖霊によって満たされたのです。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

2月29日

また、わたしの霊をお前たちの中に置き、わたしの掟に従って歩ませ、わたしの裁きを守り行わせる。—エゼキエル36:27

ある夏の終わりに、私は工員とその妻の家の別宅に滞在していました。その際、彼らを救い主を信じる単純な信仰へと導く事ができたことは喜びでした。上海に戻る時が来ましたので、私は彼らの元に聖書を置いて去りました。

彼は冬の間食事の時にアルコールを飲むこと、それも時にかなり大量に摂る習慣がありました。寒い季節がやってくると、またもやワインがテーブルに置かれました。すでに彼の習慣になっていたので、彼は食事の感謝の祈りをしようと頭を垂れました。しかしその日には何らの言葉が浮かんでこなかったのです！一、二度、虚しい努力をしてから彼は妻を見て言いました、「何が悪いのだろう？今日はどうして祈れないのだろう？」。妻は聖書を取り、問題に光となる御言葉を探しましたが、無駄でした。彼らは何らの理由が分かりませんでした。また私は彼らから非常に遠方におりました。「ちょっとワインを飲んでみたら？」と妻が言いました。しかし、彼は感謝しようとしても言葉が出ないのです。ついに「ワインを片付けてくれよ」と彼は叫びました。すると直ちに彼らは祈ることができたのです。

彼らが上海まで来る日が訪れました。そしてその話を語ってくれたのです。中国語で馴染みの単語で、「ニー兄弟、内なる親方が酒を飲ませてくれなかったよ！」と。私は「大変けっこうです、いつもその親方に尋ねなさい」と答えました。

